

経営比較分析表（令和5年度決算）

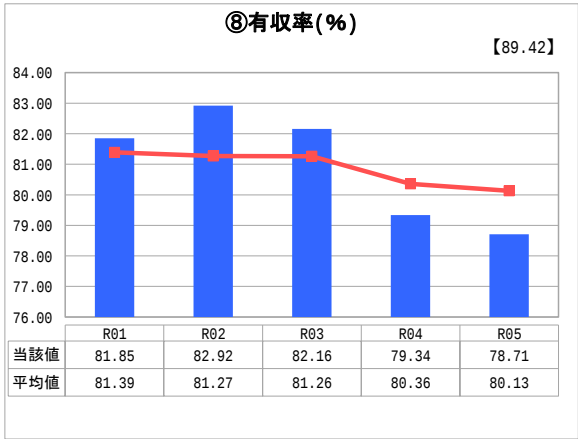
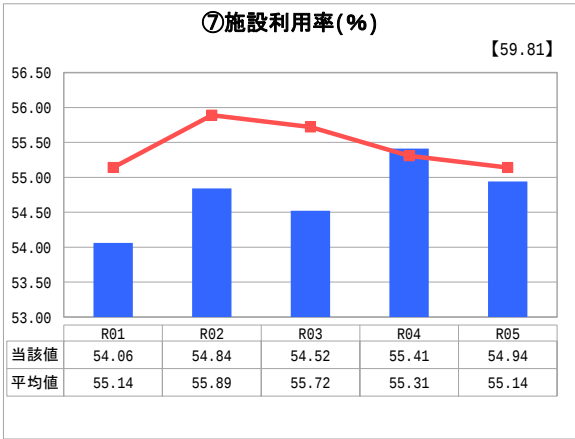
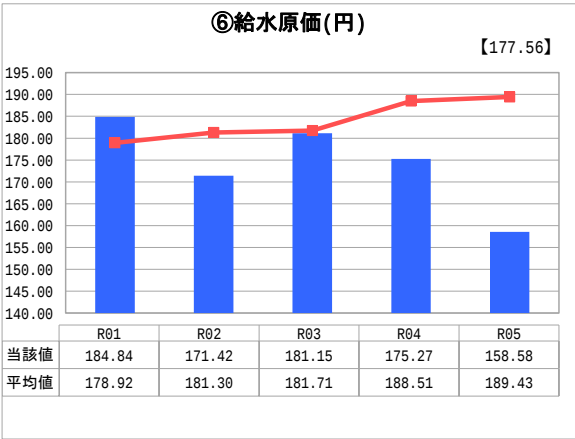
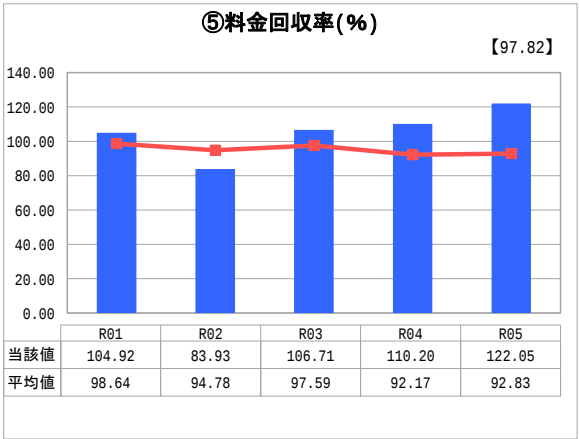
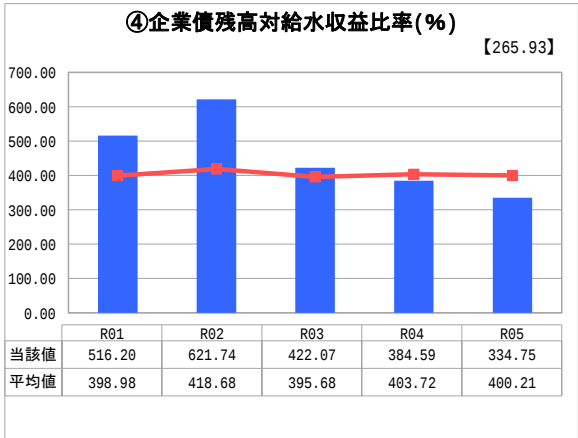
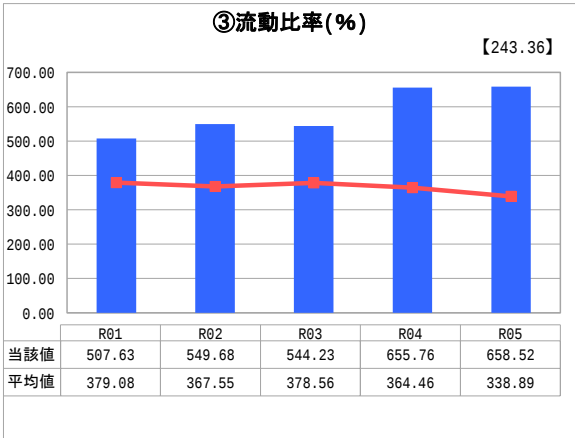
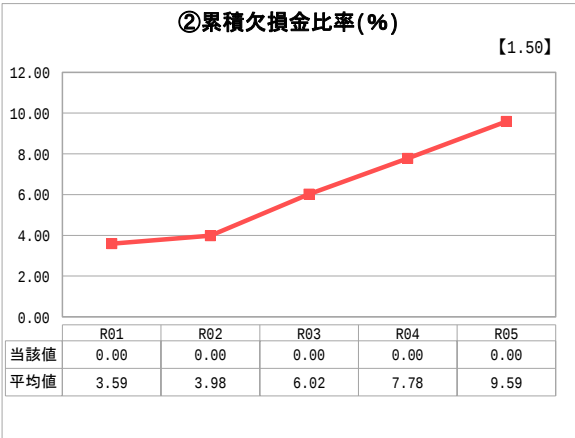
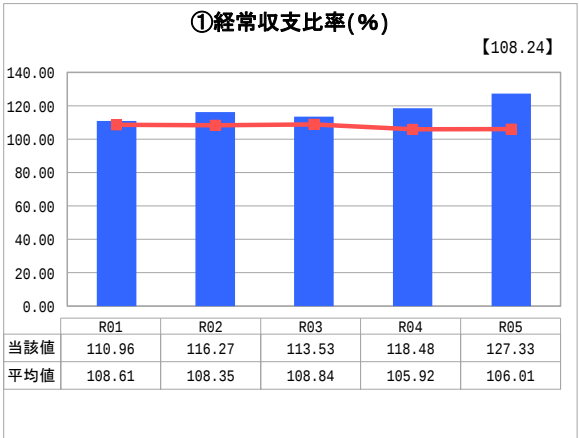
兵庫県 多可町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	78.25	99.31	3,850	

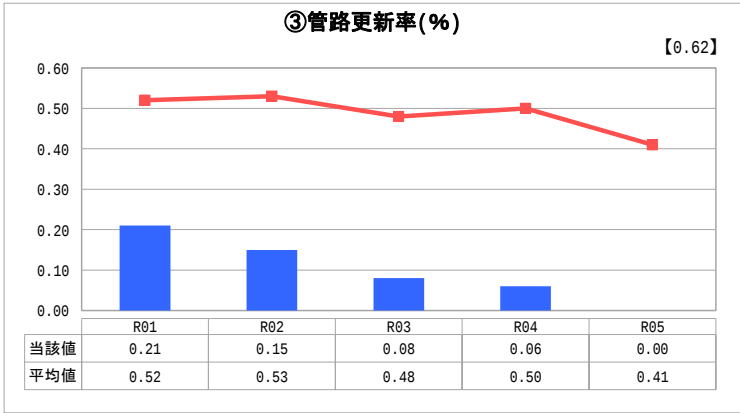
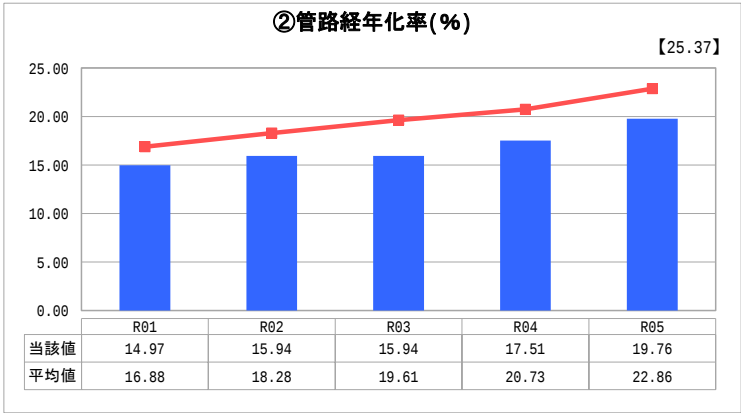
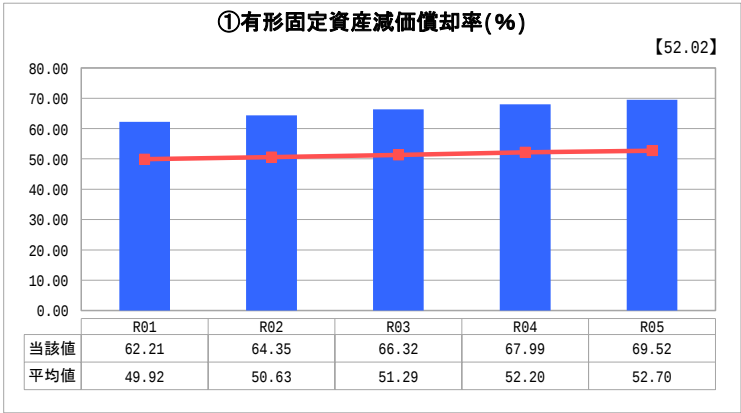
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,966	185.19	102.41
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,761	95.78	195.88

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値） — 類似団体平均値（平均値） 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率、料金回収率とも100%以上であり経営としては安定している。

流動比率も100%以上で、短期的な債務に対する返済は安定し、企業債残高対給水収益比率については、償還計画に基づき着実な改善が行え、類似団体より低い数値となっている。

施設利用率の50%台や人口減少からも、今後、規模適正化、ダウンサイジング、統廃合等の検討も必要である。

また、漏水事故多発地域の給配水管等の更新工事を行い、有収率を上げるとともに、効率的に給水原価を抑えることで、さらに各数値の向上に努めたい。

2. 老朽化の状況について

類似団体と比較して、有形固定資産減価償却率が高いことから、施設及び管路の老朽化が進んでいる。その割に管路経年化率が低いことから、特に機械設備等において老朽化が進んでいると考えられる。

また、現時点では管路更新率は1%以下にとどまり管路経年化率は低い状況だが、ここ数年で老朽管が増加するため、本格的に管路の更新に取り組む計画である。令和7年度に実施設計、8年度から更新工事を行い、約30年間継続事業で実施する予定である。

施設等の更新にあたっては、職員の配置や各種経営指標を注視しつつ、中長期的な計画を立て老朽化対策を実施する必要がある。

全体総括

経営的には現状維持を目指すも、施設・管路の老朽化という視点に立てば、老朽化した資産の再取得に多大な費用が掛かるため、経営面の充実と向上を図り、効率かつ計画的な更新を必要とする。

また、山間地という特性上、施設数が多く管路延長が長いことが課題でもある。施設利用率が低いことや人口減少からも、施設及び管路の水需要に応じた規模最適化、ダウンサイジング、統廃合等を効率的に推進していかなければならない。

今後、施設の更新を考慮した中長期的な収支計画を策定し、料金改定の検証を行うことで健全な経営に繋げたい。